

〈論文〉

日本語学習に見られるシャドーイングの効果

—中国における学習者の聞き取り面についての考察—

喬 方

キーワード：初級学習者 実験群 統制群 特殊拍 効果 指導方法

1. はじめに

近年、日本語教育の現場において、シャドーイングが注目されるようになってきた。シャドーイングとは、「聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時に、あるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為、またリスニング訓練法」である（玉井 1992；玉井 2005）。

聞き取りの能力は、言語能力の中でも最も基本的な能力である。正しく聞き取ることができない音声は、正しく発音することはできない。相手の言うことが分からなければ、コミュニケーションに参加することができない。中国における日本語学習者は読み書き能力に比して、会話能力が劣る。会話能力が劣る原因は言語観、言語教育観、学習観、指導方法にあると考える。

そこで本研究では、言語観、言語教育観、学習観の具現化である指導方法に焦点を当て、筆者が中国における日本語学習者に役立つと考えるシャドーイングと聞き取りの効果を明らかにすることを目的とする。具体的には、初級学習者を対象にシャドーイングを訓練法として導入し、どの程度の変化が起こるのかを考察する。この研究で得られた結果は、指導方法の改善を通じて、中国における日本語教育の変容に貢献すると考える。

2. 先行研究

シャドーイングに関する研究は、英語教育分野において、効果を検証する研究が行われてきた。玉井（1992）・柳原（1995）の比較実験によると、ディクテーション群よりシャドーイング群の方が有意に聴解力の伸長が見られたということである。

玉井（1992）では、シャドーイング群は、指導前と比べ、指導後の聴解力に有意な伸長があったことが示されている。建内（2004）では、リスニングのみの指導よりシャドーイング指導を行うほうが、指導後の聴解力に有意な伸びが見られたということである。これらの先行研究の結果では、

シャドーイングが聴解力の伸長に有効であることが示されている。

日本語教育においては、迫田・松見（2004）がある。同研究では9か月のシャドーイング訓練後に学習者の運用力を示すSPOTとOPIの双方に聴解力の伸びが認められた。また、発話資料や日記文の分析から語彙量・速度・一文の長さにも変化が認められた。訓練前後のリーディングスパンテスト（Reading Span Test）得点の比較により、シャドーイングの継続的訓練が第二言語での作動記憶容量を増大させることも明らかとなった。

唐澤（2009）は、1名の学習者を対象として、シャドーイングによる聴解練習を短期間行った。唐澤は、短期間のシャドーイング練習は意味・内容理解に関わる聴解力の伸長に直接的な効果を持つものではないと推測し、また、語彙や文法など長期記憶に関わって理解に至るという処理に効果が及ばなかったと報告している。

崔（2010）は、初級レベルの韓国人学習者を対象に、シャドーイング群とリスニング群を設けて、それぞれ練習を実施した。その結果、約2月間の練習後、両群の間に大きな差が見られなかったと報告している。

3. 実験

3.1 被験者

実験は、中国の広東省にある広東省旅行学校の3クラスで実施した。クラスの学習者数は、クラス0901では32名、0902では44名である。2つのクラスの学習者の日本語学習歴は約1年である。クラス1107は30名で、学習者の日本語学習歴は約0.5年である。日本語のレベルはSPOT（Simple Performance-Oriented Test）を用いて測定した結果、3クラスとも初級と判断された。

実験の対象とした学習者数は、0901が28名、0902が42名、1107が27名である。データ収集時、学校催事のため欠席した学習者は考察の対象としていない。なお、実験にあたって、0901を統制群、0902と1107をシャドーイング群（以下実験群とする）とした。

3.2 実施期間

2011年3月21日から6月25日まで実験を行った。

3.3 指導方法

シャドーイングの練習期間は3か月で、週3回授業中に行った。1回の授業は2コマ80分である。教科書は『新版 日中交流 標準日本語 初級Ⅰ』及び『新版 日中交流 標準日本語 初級Ⅱ』を使用し、シャドーイングにはその中の会話文⁽¹⁾を取り上げた。各シャドーイングの特徴⁽²⁾を利用するため、シャドーイング指導は萩原（2005a）と趙（2009）を参考にし、以下の順番で進めた。

(1) テープを聞いて、単語をリピートする

(2) テープを聞きながら、単語のシャドーイング（プロソディ・シャドーイング）を行う。

- (3) 「モデル会話」を聞きながら、テキストを読む（サイレント・シャドーイング）。
- (4) 「モデル会話」を聞きながら、テキストの平行・リーディングを行う。
- (5) テキストを見ないで、シャドーイング（プロソディ・シャドーイング）を行う。
- (6) 「モデル会話」を聞きながらテキストを見て、聞き取れなかった語、言えなかった語をチェックする。
- (7) もう一度テキストを見ないでシャドーイング（コンテンツ・シャドーイング）を行う。
- (8) 会話の内容についてポイントのリピーティングをする。
- (9) 学習者同士が組んでミニ会話を行う。

3.4 データ収集

データ収集は4回行った。1回目はシャドーイングの授業がスタートする前、2回目は1か月後、3回目は2か月後、4回目は3か月後である。使用した聞き取り問題は、本稿附録Iに示す。この中には田中・窪蘭（1999）から取り出したものと筆者が作ったものが含まれている。問いは20問あり、全てミニマルペアである。促音、撥音、長音、半濁音と濁音、清音と濁音、拗音と、学習者にとって難しいと考えられる聞き取りにくい音声いくつか含まれている。漢字には読み仮名をつけた。音声は日本語母語話者の協力を得て、録音した。問題の解答は、2つの選択肢から1つを選んで丸をつける二者択一形式とした。実験では4回とも同じ問題を用いたが、録音したものは4回とも答えの番号が違うようにした。

3.5 結果

3.5.1 実験群から見た結果

実験群の聞き取り問題を扱って、シャドーイングがスタートする前と3か月後の誤用頻度について、種類別で分析した。

3.5.1.1 清音・濁音について

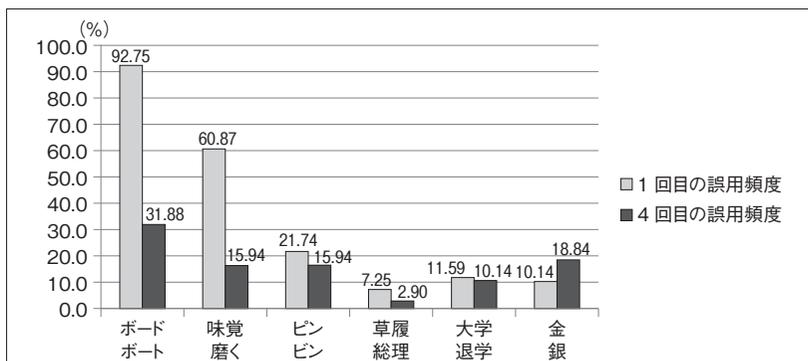


図1 清音・濁音の聞き取り誤用頻度の変化

図1から1回目と4回目の誤用頻度を比べると、清音・濁音が全体的に減っていく傾向が見られた。t検定の結果、有意差が見られた。 $(t=3.623, p<0.001)$ 特に「ボード ボート」の聞き取り誤用率の変化は最も大きく92.75%から31.88%になって、60.87%下がっている。しかし、「金 銀」の聞き取り誤用率は他と違い、高くなっている。

3.5.1.2 促音について

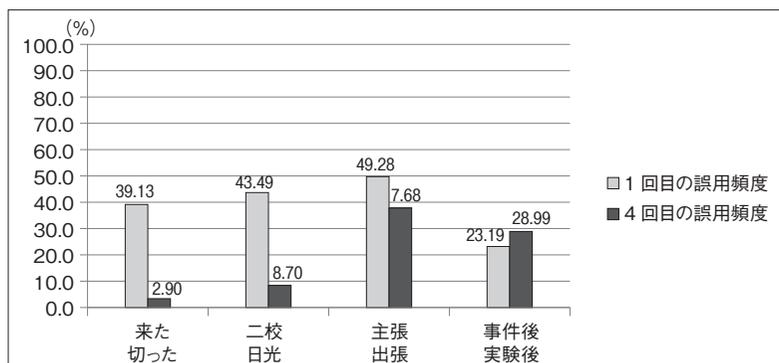


図2 促音の聞き取り誤用頻度の変化

図2から、1回目と4回目の誤用頻度を比べると、促音が全体的に減っていく傾向が見られた。t検定の結果、有意差が見られた。 $(t=2.463, p<0.001)$ 特に「来た 切った」の聞き取り誤用率の変化は最も大きく39.13%から2.90%になっており、36.23%下がった。しかし、「事件後 実験後」の聞き取り誤用率は他と違って、高くなっていた。

3.5.1.3 撥音について

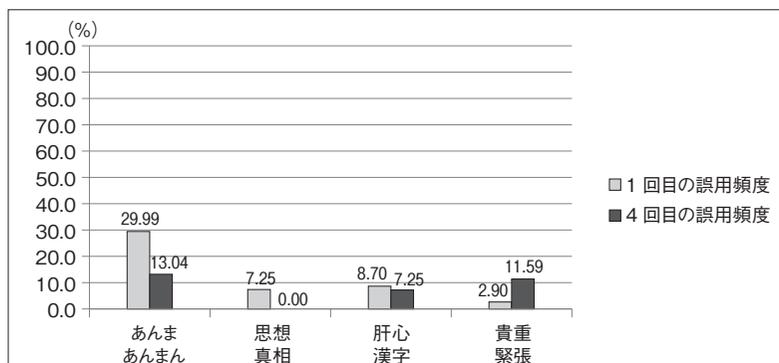


図3 撥音の聞き取り誤用頻度の変化

図3で見られるように、1回目と4回目の誤用頻度を比べると、全体的に減っていく傾向が見られた。t検定の結果、有意差が見られた。 $(t=1.443, p<0.049)$ 特に「あんま あんまん」の聞き取り誤用率の変化が最も大きく、28.99%から13.04%と、15.95%下がった。「思想 真相」の聞き取り誤用率は0%で、全員が聞き分けることができるようになっていた。しかし、「貴重 緊張」の聞き取り誤用率は反対に高くなっており、他と異なる結果となった。

3.5.1.4 長音について

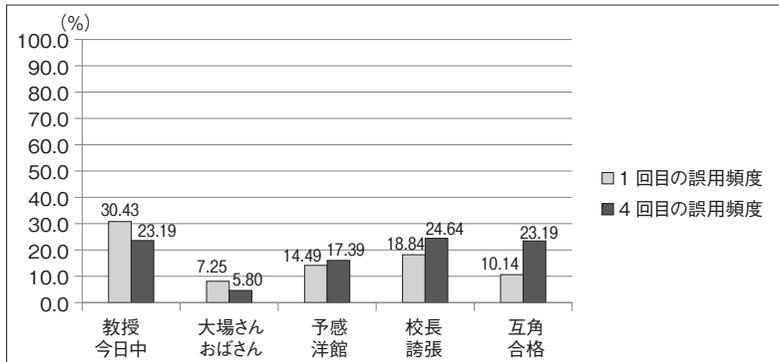


図4 長音の聞き取り誤用頻度の変化

図4で見られるように、1回目と4回目の誤用頻度を比べると、全体的に減っていく傾向が見られたのは「教授 今日中」と「大場さん おばさん」である。「五角 合格」、「校長 誇張」、「予感 洋館」の聞き取り誤用率が高くなった。長音の聞き取り誤用頻度の変化についてはt検定の結果、有意差は見られなかった。 $(t=0.812, p>0.423, n.s.)$

3.5.2 実験群と統制群の比較から得た結果

シャドーイング訓練法を導入して、どの程度学習能力が向上するかを検討するため、実験群（69名）と統制群（27名）を設け、「聞き取りテスト」を実施した。なお、統制群の資料が不備なため、統制群は、1回目のデータが利用できなかった。そこで、両群の2回目から4回目のデータを用いて比較した。その結果を表1と図5に示す。

表1 聞き取り問題の得点

Group	聞き取り問題			Sum	F	P
	2回目	3回目	4回目			
統制群	\bar{x}	15.2083	15.2917	15.9583	1.037	0.360
	SE	0.31265	0.44019	0.44428		
実験群	\bar{x}	15.3158	15.7632	18.0526	24.375	<0.001
	SE	0.31125	0.33189	0.24134		
Sum	\bar{x}	15.2742	15.5806	17.2419	16.0323	27.478
	SE	0.22434	0.26475	0.25985		
F	0.54	0.74	20.283	5.053#	(F=8.71,	
P	0.818	0.390	0.000	0.028#	P<0.001) * #	

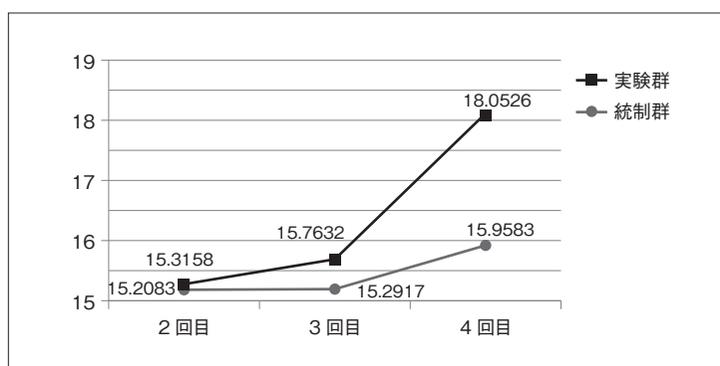


図5 聞き取り問題の変化

表1からわかるように、実験群の平均点は15.32から18.05になり、上がっていく傾向が見られた。また、統制群の平均点も15.21から15.96になり、上がっていく傾向が見られた。図5で見られるように、2回目から3回目の間、すなわち、シャドーイングを開始してから、1か月から2か月の間はほとんど差が見られなかった。しかし、3回目から4回目の間、すなわち、練習を始めてから2か月から3か月の間に、聞き取りの力に大きな変化が生じている。つまり、この頃からシャドーイングの効果が表れ始めたものと考えられる。

3.6 考察

拗音については、データとして収集できる誤用が出なかったため、今回の考察から除外した。

聞き取り誤用頻度の変化から見ると、1回目と4回目の誤用率では、清音・濁音、促音、撥音に減っていく傾向が見られたが、長音は上がっていく傾向であった。これは、中国語では、長短音の区別がないため、今回の単語レベルの調査では、聞き分けがしにくいものと考えられる。

次に、調査の項目中で誤用頻度が上がっていく項目について分析を行った。その結果、以下のことが言える。

清音・濁音については、「金 銀」が例として挙げられる。「金 銀」の聞き取り誤用率が高くなったことから、/k//g/と/i/の問題かどうかを検討する必要がある。

促音については、「事件後 実験後」が例としてあげられる。「事件後 実験後」の聞き取り誤用率が高くなったことから、音節数が多いことが影響を与えたかどうかを検討する必要がある。

撥音については、「貴重 緊張」が例として挙げられる。「貴重 緊張」の聞き取り誤用率が高くなったことから、母音の無声化の影響が考えられる。今回の実験問題では、母音の無声化は考察項目と考えなかった。今後の課題としたい。

本稿では、中国における学習者に役立つと予想されるシャドーイングと聞き取りの効果を明らかにするために、初級レベルの学習者を対象にシャドーイング練習を導入し、「聞き取りテスト」を行い比較することにより、その効果を言及した。

日本語レベル初級の学習者の場合、実験群と統制群に分けて約3か月間シャドーイング練習を行った結果、実験群と統制群の間に差が見られた。このことから、シャドーイングは若干効果があったと考える。実験群と統制群の比較から見ると、両群ともに聞き取りの力が徐々についてくる傾向が見られた。2か月目から3か月目の間に、両者の伸びの幅に差が見られた。このことから、2か月目から3か月目の時期から実験群にシャドーイングの効果が現れたものと考えられる。

4. 今後の課題

今回は、傾向を探るため、聞き取り結果を全体的に分析した。換言すれば、個人別の分析はしなかった。従って、発音面の考察を扱った対象者のデータを、上位群、中位群と下位群を分けて分析すること、発音面の考察を上位群、中位群と下位群を分けて分析すること、聞き取りの変化と発音の変化を種類別で比較することを今後の課題としたい。

謝 辞

本稿執筆においては、指導してくださった水谷信子先生、助言をいただいた山岸勝栄先生、山下早代子先生に、この場を借りて深く感謝申し上げます。なお、本研究のためデータを提供くださいました関連機関、方々、そしてデータ収集のためにお手伝いくださった皆様にも心より感謝申し上げます。

〈注〉

(1) 会話文例（初級Ⅰ 24課）：

（携帯電話が鳴っている）

小野：もしもし、小野です。

清水：小野さん？ 清水だけど。

小野：ああ、清水君、どうしたの？

清水：最近太田から連絡あった？

小野：太田君から？ ううん、ないわよ。どうして？

清水：太田、今度中国へ転勤だって。

小野：本当に？ いつ行くの？

清水：たしか来月だよ。

小野：急ね。中国のどこ？ 期間はどのくらい？

清水：北京だって。期間は4年から5年かな。

小野：ずいぶん長いわね。太田君一人で行くの？

清水：いや、奥さんもいっしょだよ。

来週送別会をするけど、都合はどうか？

小野：ええと、火曜日は予定があるけど、それ以外は大丈夫よ。

清水：分かった。じゃあ、また連絡するよ。

- (2) プロソディー・シャドーイングでは、発音に注意を向け、それをできるだけそのまま模倣しながら、復唱することが重要である。特にリズムやイントネーションなど韻律に注意する。

コンテンツ・シャドーイングでは、文の意味内容をとりながら、同時に口からすらすらと復唱した音声が出てくる状態になることが目的である。

サイレント・シャドーイングでは、声に出すか出さないかの小声まずはやってみるという段階である。最初からいきなりシャドーイングをするのは難しいという場合に実施する。パラレル・リーディングは発音の良し悪しよりもモデル音声についていけるかどうか、一番のポイントとなる。

参考文献

- 荻原廣 (2005a)「日本語の発音指導におけるシャドーイングの有効性」『京都経済短期大学論集』第13巻, 第1号, 55-71 京都経済短期大学
- 荻原廣 (2005b)「シャドーイングの日本語音声教育における有効性—単音, アクセント指導を中心に—」『国文学論業』52 112-125 龍谷大学
- 唐澤麻里 (2009)「日本語学習者の聴解能力に対するシャドーイングの効果」『お茶の水女子大学人文科学研究』第5巻 185-196 お茶の水女子大学
- 崔真姫 (2010)「初級レベル学習者におけるシャドーイングとリスニングの実践研究」『Shadowing 在第二语言学习的应用』61-66 国立台中技术学院应用日语系跨国语言教学研讨会
- 迫田久美子・松見法男 (2004)「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究—わかるからできるへの教室活動の試み—」『2004年度日本語教育学会秋季大会予稿集』223-224 日本語教育学会
- 建内高昭 (2004)「シャドーイング実践を利用したリスニング指導」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第8号 149-154
- 田中真一・窪園晴夫 (1999)『日本語の発音教室 理論と練習』くろしお出版
- 玉井健 (1992)「follow-upの聴解力向上に及ぼす効果およびfollow-up能力と聴解力の関係」『STEP BULLETIN』Vol.4 日本英語検定協会 48-62
- 趙菁 (2009)「シャドーイング法の初級中国語教育への応用：教室におけるシャドーイングの実践を中心に」『外国語教育フォーラム』3 35-48 金沢大学
- 柳原 由美子 (1995)「英語聴解力の指導方に関する実験的研究—シャドウイングとディクテーションの効果について—」『Language Laboratory』Vol.32, 73-89, 語学ラボラトリー学会

付記：本稿は全国語学教育学会 (JALT)「37th Annual International Conference on Language Teaching and Learning」(2011年11月19日, 東京・代々木)にて、口頭発表した内容に加筆修正したものである。

附録 I 聞き取りの試験問題

- | | | |
|-----|-------------------------|----------------------------|
| 1. | 味覚 <small>みかく</small> | 磨く <small>みがく</small> |
| 2. | 草履 <small>ぞうり</small> | 総理 <small>そうり</small> |
| 3. | ボード | ボート |
| 4. | 二校 <small>にこう</small> | 日光 <small>にっこう</small> |
| 5. | 主張 <small>しゅちゅう</small> | 出張 <small>しゅつちゅう</small> |
| 6. | 貴重 <small>きちゆう</small> | 緊張 <small>きんちゆう</small> |
| 7. | 校長 <small>こうちゆう</small> | 誇張 <small>こちゆう</small> |
| 8. | 互角 <small>こかく</small> | 合格 <small>ごうかく</small> |
| 9. | 来た <small>きた</small> | 切った <small>き</small> |
| 10. | 思想 <small>ししゆ</small> | 真相 <small>しんしゆう</small> |
| 11. | あんま | あんまん |
| 12. | 事件後 <small>じけんご</small> | 実験後 <small>じっけんご</small> |
| 13. | 教授 <small>きょうじゆ</small> | 今日中 <small>きょうじちゆう</small> |
| 14. | 肝心 <small>かんじん</small> | 漢字 <small>かんじ</small> |
| 15. | お場さん | おばさん |
| 16. | 大学 <small>だいがく</small> | 退学 <small>たいがく</small> |
| 17. | 金 <small>きん</small> | 銀 <small>ぎん</small> |
| 18. | 予感 <small>よかん</small> | 洋館 <small>ようかん</small> |
| 19. | ピン | ピン |
| 20. | 病院 <small>びやういん</small> | 美容院 <small>びやういん</small> |